



I FLAG

平成27年3月期 第2四半期
決算補足説明資料
(連結)

平成26年11月14日

株式会社アイフラッグ
<http://www.iflag.co.jp/>

目次

平成27年3月期 第2四半期 連結業績

課題と事業展開	… 4
目指すべきビジネスモデル	… 5
損益計算書	… 6
サービス別売上高	… 7
営業費用	… 8
損益計算書(四半期推移)	… 9
サービス別売上高(四半期推移)	…10
営業費用(四半期推移)	…11
貸借対照表	…12
キャッシュ・フロー	…13

平成27年3月期 連結業績予想の修正

平成27年3月期 業績予想の修正(通期)	…15
サービス別売上高予想の修正(通期)	…16
お問い合わせ	…17
補足資料	
平成27年3月期 業績予想(半期別)	…19
サービス別売上高予想(半期別)	…20

平成27年3月期 第2四半期 連結業績

課題と事業展開

課題

①利益成長

現時点における利益の伸長は緩やかであり、短期間で大きな成長を見込むのが難しい

②ユーザーニーズの多様化

ニーズの高度化・多様化に対応したソリューションも提供していないと、市場競争力を失う可能性がある

事業展開

企業規模を拡大し、短期間でストック売上を大幅に積み上げることで、大きな利益成長を目指すために、5つの取組みを推進

新サービスの
立上げ

業種特化型の
取組みの強化

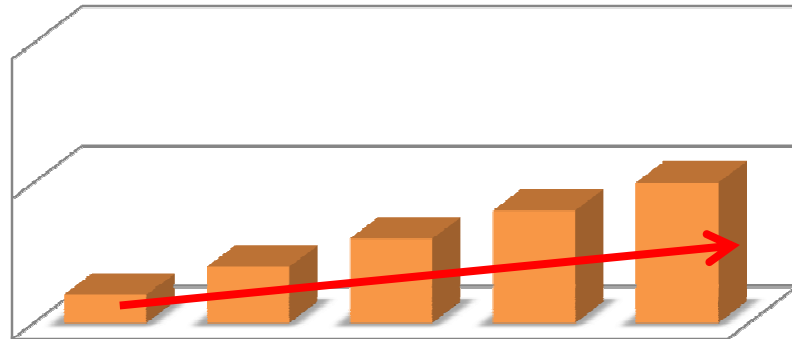
商材・サービスの
ラインナップの拡充

営業稼働人員の
大幅な増員

HPソリューション
サービスの拡大

目指すべきビジネスモデル

現在のストック型ビジネス

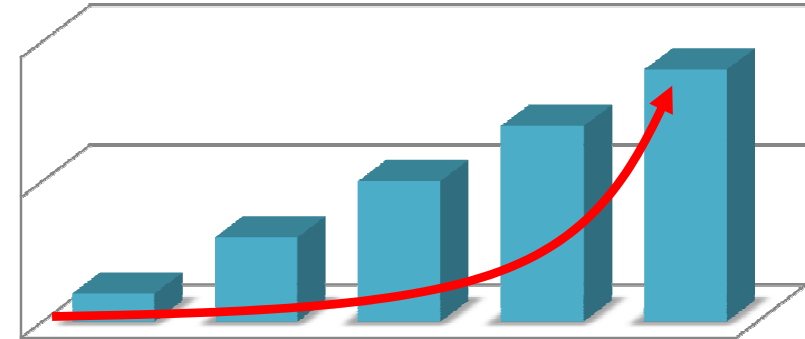


1ヶ月 2ヶ月 3ヶ月 4ヶ月 5ヶ月

■ ストック型収入

利益が緩やかに伸長

目指すべきストック型ビジネス



1ヶ月 2ヶ月 3ヶ月 4ヶ月 5ヶ月

■ ストック型収入

短期間での大きな成長

ストック型ビジネスの特徴

開始時は、保有顧客アカウント数が少なく、ストック売上が少額となるため、費用が先行し、短期的に赤字を計上。その後は、保有顧客アカウント数の増加によるストック売上の成長にあわせ、安定的に利益を確保することができるモデル。

損益計算書

売上高は大幅に増加したものの、大規模な積極投資の推進に伴い、**営業利益以下の各区分利益において損失を計上**

【単位:百万円】	H26.3 2Q累計	売上比	H27.3 2Q累計	売上比	対前期 増減率	対前期 差額
売上高	2,199	100.0%	2,932	100.0%	+33.3%	+732
売上原価	526	24.0%	921	31.4%	+74.9%	+394
売上総利益	1,672	76.0%	2,010	68.6%	+20.2%	+338
販管費	1,618	73.6%	3,472	118.4%	+114.5%	+1,853
営業利益(△損失)	53	2.4%	△1,462	△49.9%	—	△1,515
経常利益(△損失)	82	3.7%	△1,473	△50.3%	—	△1,555
四半期純利益(△純損失)	68	3.1%	△1,498	△51.1%	—	△1,567

- » 新主力サービスであるシステム・メディアソリューションの本格立ち上げ等により、**売上高が33.3%増加**
- » 新主力サービスの立ち上げ等の大規模な積極投資の推進により、**営業費用が104.8%増加**
- » 結果、費用が先行する新主力サービスの立ち上げ等により、**営業利益以下の各区分利益において損失を計上**

サービス別売上高

HPソリューションは、**堅調に推移**
システム・メディアソリューションの本格立ち上げに伴い、**大幅に増加**

【単位:百万円】	H26.3 2Q累計	構成比	H27.3 2Q累計	構成比	対前期 増減率	対前期 増減額
HPソリューション	2,199	100.0%	2,386	81.4%	+8.5%	+186
ストック売上	743	33.8%	820	28.0%	+10.3%	+76
フロー売上	1,455	66.2%	1,565	53.4%	+7.6%	+110
システム・メディアソリューション	—	—	546	18.6%	—	+546
ストック売上	—	—	129	4.4%	—	+129
フロー売上	—	—	416	14.2%	—	+416
売上高	2,199	100.0%	2,932	100.0%	+33.3%	+732

※1:HP(ホームページ)ソリューションは、旧商材ITパッケージと新商材クラウドパッケージの他、ヤフー商材、WEB広告、WEB制作等の売上高を示します。

※2:システム・メディアソリューションは、ポータルサイトの運営・広告掲載、予約・顧客管理システム等の売上高を示します。

※3:ストック売上は、サービス料(月額課金)の売上高を、フロー売上は、初期導入費用(導入初月に一括計上)の売上高を示します。

- » HPソリューションは、ストック売上もフロー売上もともに堅調に推移し、**前期比で8.5%増加**
- » システム・メディアソリューションは、**本格立ち上げに伴い大幅に増加**
- » 結果、**売上高は33.3%増加**

営業費用

売上高の大幅な増加に伴い、**売上原価が増加**
 営業稼働人員の大幅な増員等の影響により、**販管費が大幅に増加**

【単位:百万円】	H26.3 2Q累計	売上比	H27.3 2Q累計	売上比	対前期 増減率	対前期 差額
売上原価	526	24.0%	921	31.4%	+74.9%	+394
人件費	1,005	45.7%	2,024	69.0%	+101.3%	+1,019
地代家賃	118	5.4%	179	6.1%	+51.4%	+60
旅費交通費	110	5.0%	215	7.4%	+95.9%	+105
その他販管費	384	17.5%	1,053	35.9%	+173.7%	+668
販管費	1,618	73.6%	3,472	118.4%	+114.5%	+1,853
営業費用	2,145	97.6%	4,394	149.9%	+104.8%	+2,248

- » システム・メディアソリューションの本格稼働による、営業稼働人員の大幅な増員の影響等により、**販管費が114.5%増加**
- » 結果、売上高の増加に伴い、売上原価も増加したため、**営業費用は104.8%増加**

損益計算書(四半期推移)

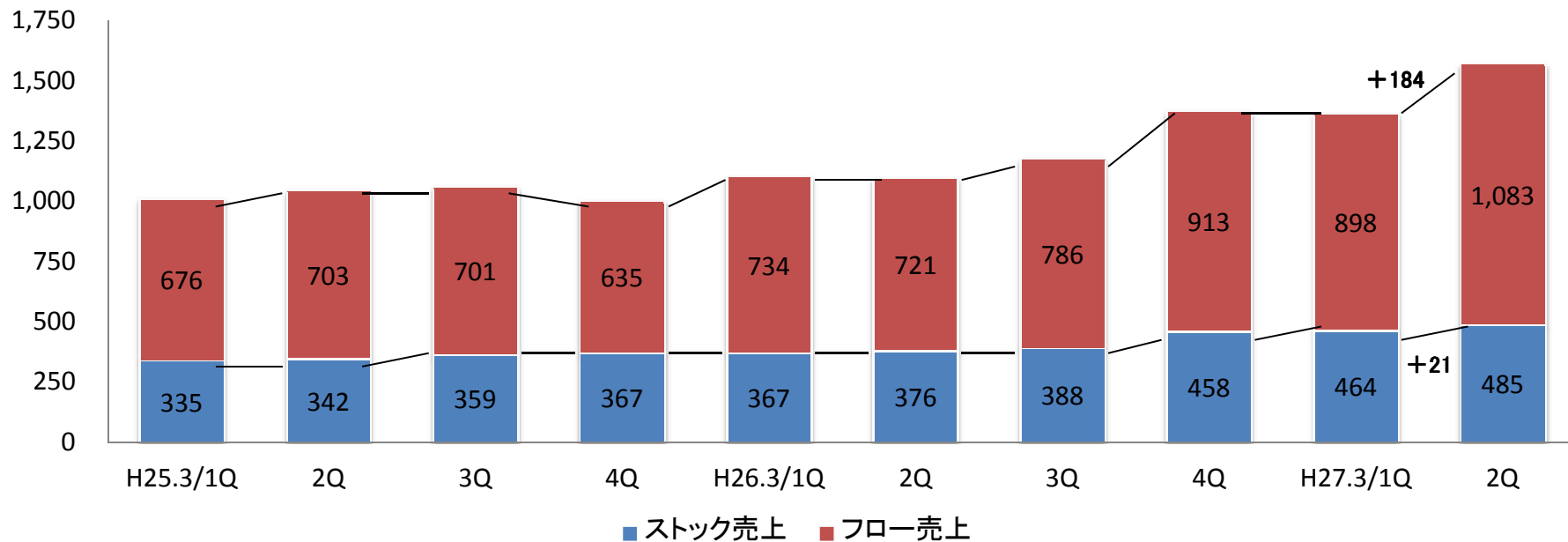
システム・メディアソリューションの本格稼働等に伴う、売上高の増加により、**損失額が縮小**



サービス別売上高(四半期推移)

保有顧客アカウント数の増加に伴い、**ストック売上が増加**
システム・メディアソリューションの本格稼働等により、**フロー売上也増加**

【百万円】



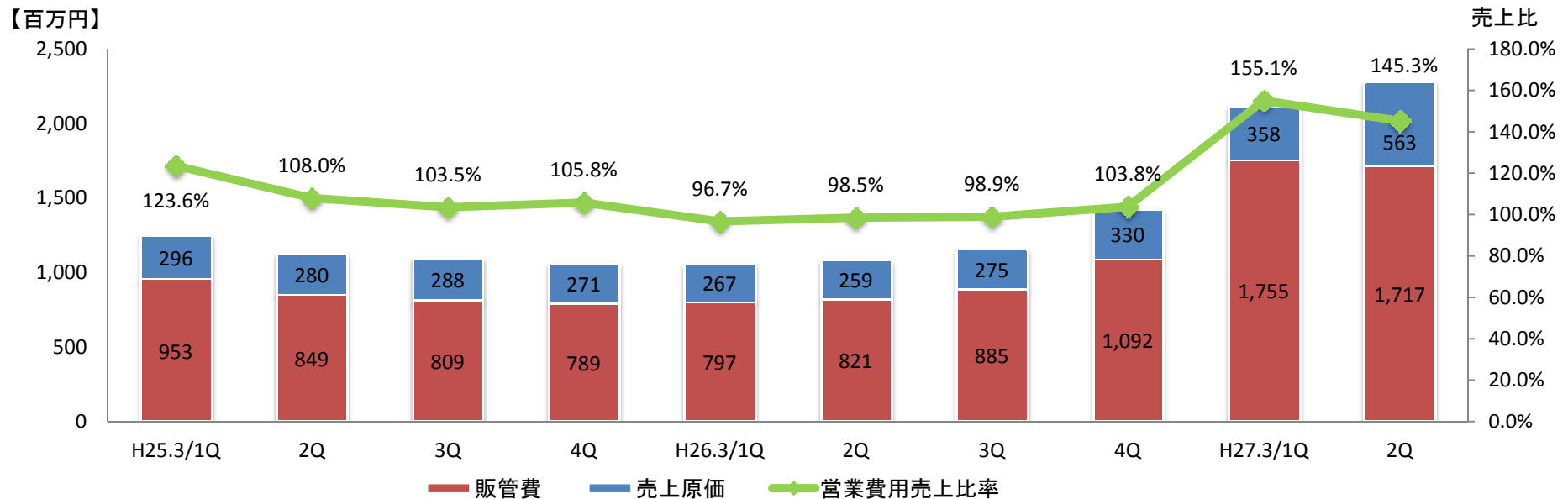
第2四半期の状況（前四半期比較）

- » HPソリューション、システム・メディアソリューションの保有顧客アカウント数の増加に伴い、**ストック売上が増加**
- » HPソリューションが堅調に推移したことに加え、システム・メディアソリューションの本格稼働開始により、**フロー売上也増加**

営業費用(四半期推移)

売上高の増加に伴う売上原価の増加により、**営業費用が増加**

営業費用	1,250	1,129	1,098	1,060	1,064	1,080	1,161	1,423	2,113	2,280
売上比	123.6%	108.0%	103.5%	105.8%	96.7%	98.5%	98.9%	103.8%	155.1%	145.3%



第2四半期の状況（前四半期比較）

- » 売上高の増加に伴い、また、プロモーションコストの投下等に伴い、**売上原価が57.2%増加**
- » 積極投資を継続により、**販管費はほぼ横ばい**
- » 結果、**営業費用は7.9%増加**

貸借対照表

大規模な積極投資の推進により、**純資産が減少し、負債が増加**

【単位:百万円】	H26.3末	構成比	H27.9末	構成比	対前期末 増減率	対前期末 差額
流動資産	2,033	57.7%	1,731	48.5%	△14.9%	△302
固定資産	1,487	42.3%	1,838	51.5%	+23.6%	+350
資産 合計	3,520	100.0%	3,569	100.0%	+1.4%	+48
流動負債	937	26.6%	1,697	47.6%	+81.0%	+759
固定負債	403	11.5%	1,179	33.0%	+191.9%	+775
負債 合計	1,341	38.1%	2,876	80.6%	+114.4%	+1,535
純資産 合計	2,179	61.9%	692	19.4%	△68.2%	△1,486
負債・純資産 合計	3,520	100.0%	3,569	100.0%	+1.4%	+48

- » 現金及び預金の減少等により、**流動資産が減少**、
- » 商材・サービスの開発推進や投資有価証券の取得等により、**固定資産は増加**
- » 買掛金及び未払金の増加等により、**流動負債が増加**、長期借入の実行により、**固定負債も増加**
- » 四半期純損失の計上による利益剰余金の減少等により、**純資産が減少**

キャッシュ・フロー

大規模な積極投資の推進によるフリー・キャッシュ・フローのマイナスにより、**現金及び現金同等物が減少**

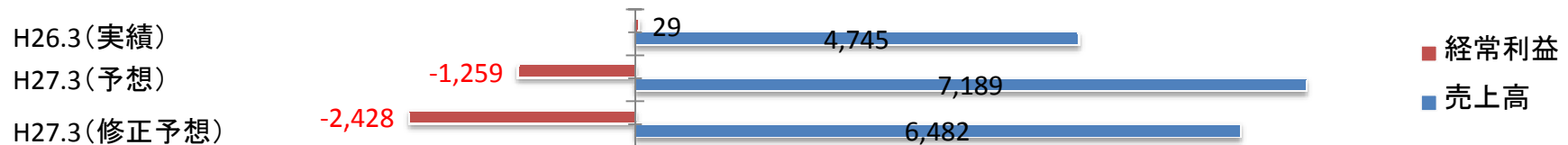
【単位:百万円】	H26.3 2Q累計	H27.3 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	+101	△949
投資活動によるキャッシュ・フロー	△62	△527
財務活動によるキャッシュ・フロー	+0	+960
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	+38	△517
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,362	734

- » 積極投資の推進による税金等調整前四半期純損失の計上等により、**営業CFはマイナス**
- » 商材・サービスの開発推進による無形固定資産の取得や投資有価証券の取得等により、**投資CFはマイナス**
- » 長期借入による収入等により、**財務CFはプラス**
- » 結果、フリー・キャッシュ・フローのマイナスにより、**現金及び現金同等物の四半期末残高は減少**

平成27年3月期 業績予想の修正

平成27年3月期 業績予想の修正(通期)

【単位:百万円】	H27.3通期 期初計画 (5/15発表)	売上比	H27.3通期 修正計画 (11/11発表)	売上比	増減率	増減額
売上高	7,189	100.0%	6,482	100.0%	△9.8%	△707
売上原価	1,881	26.2%	1,686	26.0%	△10.3%	△194
売上総利益	5,308	73.8%	4,795	74.0%	△9.7%	△513
販管費	6,562	91.3%	7,192	111.0%	+9.6%	+629
営業利益(△損失)	△1,253	△17.4%	△2,396	△37.0%	—	△1,142
経常利益(△損失)	△1,259	△17.5%	△2,428	△37.5%	—	△1,168
当期純利益(△純損失)	△1,277	△17.8%	△2,468	△38.1%	—	△1,191



修正計画の内容(期初計画比較)

- システム・メディアソリューションの伸びが当初の計画に対して緩やかであること、また、顧客層である中小企業の業況が不透明感を増しつつあることから、**売上高が9.8%減少し、売上総利益が9.7%減少する見込み**
- 一方、成長性が高いと見込まれる市場において、早期に市場シェアを高めることによって優位性を確保すべく、積極投資を継続し、ストック売上の大幅な積み上げを図るため、**販管費は9.6%増加する見込み**
- 結果、売上総利益の減少の一方で、販管費が増加するため、**営業利益以下の各区分利益の損失額が拡大する見込み**

サービス別売上高予想の修正(通期)

【単位:百万円】	H27.3通期 期初計画 (5/15発表)	構成比	H27.3通期 修正計画 (11/11発表)	構成比	増減率	増減額
HPソリューション	5,007	69.7%	4,785	73.8%	△4.4%	△222
ストック売上	1,831	25.5%	1,634	25.2%	△10.7%	△196
フロー売上	3,176	44.2%	3,150	48.6%	△0.8%	△26
システム・メディアソリューション	2,181	30.3%	1,696	26.2%	△22.2%	△485
ストック売上	878	12.2%	357	5.5%	△59.3%	△520
フロー売上	1,303	18.1%	1,338	20.7%	+2.7%	+35
売上高	7,189	100.0%	6,482	100.0%	△9.8%	△707

※ H26.3通期(実績)及びその構成比につきましては、従来のIT支援売上のうち、株式会社スフィードの売上をシステム・メディアソリューションのストック及びフロー売上に、その他の売上をHPソリューションのフロー売上に変更しています。

修正計画の内容(期初計画比較)

- » HPソリューションについて、上半期は堅調に推移したものの、下半期においては、顧客層である中小企業の業況が不透明感を増しつつあることから、**売上高は4.4%減少する見込み**
- » システム・メディアソリューションについて、1契約顧客アカウントからの収益は増加しているものの、保有顧客アカウント数の伸びが当初の計画に対して緩やかであることから、**売上高が22.2%減少する見込み**

お問い合わせ先

株式会社アイフラッグ 管理本部 管理部 (IR担当)

Tel 03-5733-4492

Mail ir@iflag.co.jp

IRインフォメーション

株式会社アイフラッグ IRページ

<http://www.iflag.co.jp/ir.html>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が入手している情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により、本資料に記載されている情報と大きく異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられる情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料の業績見通し等のみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製、または転送等を行われぬようお願いいたします。

補足資料

平成27年3月期 業績予想(半期別)

【単位:百万円】	H27.3上期 修正計画 (11/11発表)	売上比	対前期 増減率	H27.3下期 修正計画 (11/11発表)	売上比	対前期 増減率
売上高	2,932	100.0%	+33.3%	3,549	100.0%	+39.4%
売上原価	921	31.4%	+74.9%	765	21.6%	+26.2%
売上総利益	2,010	68.6%	+20.2%	2,784	78.4%	+43.5%
販管費	3,473	118.5%	+114.6%	3,718	104.7%	+87.9%
営業利益(△損失)	△1,462	△49.9%	—	△933	△26.3%	—
経常利益(△損失)	△1,473	△50.3%	—	△955	△26.9%	—
当期純利益(△純損失)	△1,498	△51.1%	—	△969	△27.3%	—

サービス別売上高予想(半期別)

【単位:百万円】	H27.3上期 修正計画 (11/11発表)	構成比	対前期 増減率	H27.3下期 修正計画 (11/11発表)	構成比	対前期 増減率
HPソリューション	2,386	81.4%	+8.5%	2,399	67.6%	△0.8%
ストック売上	820	28.0%	+10.3%	814	22.9%	+3.7%
フロー売上	1,565	53.4%	+7.6%	1,585	44.6%	△3.0%
システム・メディアソリューション	546	18.6%	—	1,150	32.4%	+808.1%
ストック売上	129	4.4%	—	228	6.4%	+272.3%
フロー売上	416	14.2%	—	922	26.0%	+1,310.9%
売上高	2,932	100.0%	+33.3%	3,549	100.0%	+39.4%

※ 対前期増減率の算出にあたっては、従来のIT支援売上のうち、株式会社スフィードの売上をシステム・メディアソリューションのストック及びフロー売上に、その他の売上をHPソリューションのフロー売上に変更しています。